**「ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー　私たちの永遠の避難所」**

**2022年12月18日**

**逗子例会**

**ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー第170回生誕祝賀会**

**スワーミー・メーダサーナンダによる講話**

**於・逗子本館**

今日はホーリー・マザーの生誕をお祝いしています。ここにいるほとんどの皆さんは、ホーリー・マザーの生涯について知っていますが、中には知らない人もいるので簡単に説明します。ホーリー・マザーは1853年12月にベンガルのある村で生誕なさいました。少女時代にシュリー・ラーマクリシュナと結婚しました。当時、インドでは幼児婚は一般的だったからです。当時の習慣に基づき、彼女は結婚後も両親とともにジャイランバティに住み続けました。そして大きくなってからシュリー・ラーマクリシュナと暮らし始めました。

つまり、お二人の結婚生活はかなり後になってから始まったのです。しかし、覚えておかなければならないのは、お二人の結婚は名ばかりのものだったということです。その関係性はピュアなもので、夫と妻の肉体的な関係はありませんでした。ある時、ホーリー・マザーは、シュリー・ラーマクリシュナをどのように見ておられますか、という質問を受けました。その時ホーリー・マザーは「夫、息子、そしてマザー・カーリーとして見ています」と答えました。ですので、シュリー・ラーマクリシュナが亡くなった時、ホーリー・マザーは泣き叫んで言いました。「おお、マザー・カーリー、どうして私から離れておしまいになるのですか？」

ホーリー・マザーがシュリー・ラーマクリシュナと一緒に住むようになってから、シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーに霊的生活についても主婦としての生活についても詳しく教えました。ホーリー・マザーは霊的修行をたくさんなさいました、そして聖者になったのです。ホーリー・マザーはシュリー・ラーマクリシュナの妻だから聖者である、などと考えるべきではありません。彼女はご自身の権利で聖者となりました。ホーリー・マザーを言いあらわすのに、聖者という言葉だけでは不十分です。彼女はそれ以上の存在でした。彼女は聖なる母の化身だったのですから。

ある時、一人の信者がシュリー・ラーマクリシュナの直弟子スワーミー・サーラダーナンダに、「私はサーラダー・デーヴィーが聖なる母の化身だなんてまったく信じられません」と言いました。サーラダーナンタジーは、「もしあなたが、シュリー・ラーマクリシュナが神の化身である、ということを本当に信じているのなら、彼がその資質を持たない女性と結婚したと思いますか？　ラーマとシーターやクリシュナとラーダーのことを考えてごらんなさい。シーターもラーダーも一般的な女性ではありませんでした。同じことがサーラダー・デーヴィーにも当てはまります」。

シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーのことを「彼女は私のシャクティだ。火を、燃える力と光を与える力に分けることなどできるかい？　火を思う時、その燃える力も光を与える力も心に浮かぶだろう」と言いました。　シュリー・ラーマクリシュナの生涯が終焉を迎えようとしていたある日、サーラダー・デーヴィーが彼のもとに行くと、シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーのことをただじっと見つめました。ホーリー・マザーは「どうしてそのようにただじっと私を見ておられるのですか？　何かおっしゃりたいのではありませんか？」と尋ねると、シュリー・ラーマクリシュナは「私は全てのことを一人でやらなければならないのかい？　お前は何もしないつもりかね？」と言いました。サーラダー・デーヴィーは「私は一人の女性に過ぎません。いったい何ができるというのでしょう？」と答えました。するとシュリー・ラーマクリシュナは「いやいや、お前はもっとしなくちゃいけないよ」と言いました。するとホーリー・マザーは「時がくれば、考えてみます」と言いました。

シュリー・ラーマクリシュナが亡くなったあと、ホーリー・マザーは四つの大きな役割を果たしました。

1．ラーマクリシュナ僧団の守護神

2．信者たちの霊的な導き者

3．解脱を与える者

4. 普遍的な母という役割

これらの中で、普遍的な母性としての役割が一番際立っていました。

では、普遍的な母ホーリー・マザーと、一般的な母親とは何が違いますか？

一般的な母親がえこひいきをするのはよくあることです。他の子供より多くのお金を稼ぐ子供、より賢い子供、より従順な子供、または母親の世話をする子供を愛する、ということはよくあることではないですか？　しかし、ホーリー・マザーはそうではありませんでした。なぜなら彼女は子供らにいかなる見返りも期待しなかったからです。彼女は、善い人も悪い人も、従順な人もそうでない人も、彼女を手助けする人も助けない人も、差別しませんでした。彼女は期待をしなかったので、彼女の愛は平等でした。

もう一つのポイントは、息子が困っているとき、母親は絶対に助けようとします。しかし、息子を助ける母親の力には限界がありますね。　しかし、聖母には無限の力があります。さらに、一般的な母親は我が子のこの世での幸せを考えますが、あの世のことについては考えません。私たちヒンドゥ教徒と仏教徒は生と死の輪廻転生を信じています。一般的な母親は我が子が解脱するか否か、天国に行くか地獄に行くか、などについては全く悩みません。彼女の全愛情は今生のみの子供の幸せにとどまっているからです。しかし、聖母は我が子の今生での幸せの面倒をみるだけでなく、この世の後の別の世界の面倒もみます。これは大きな違いではありませんか？　このような一般的な母親とホーリー・マザーの違いは、彼女自身の言動によって明らかです。そしてそれは彼女が聖母である証です。

もう一つの違いは、人間の母親は今生だけの母親ですが、ホーリー・マザーは永遠の母である、ということです。人間の母親もまた聖母の化身です。つまり、ホーリー・マザーは実際の母でもあるのです。彼女はさまざまな母親の中にあらわれています。彼女自身、発言を通してこの点を何度も強調してきました。誰かが彼女に「あなたはどんなお母さんですか？」と尋ねました。というのはインドでは年配の女性は尊敬をもって「お母さん」と呼ぶからです。それは習慣です。ですので、質問をした人はそのことを確認したかったのです。ホーリー・マザーは、慣習的な敬意からお母さんと呼ばれていたのでしょうか？　それとも、シュリー・ラーマクリシュナの妻だからでしょうか？　ホーリー・マザーは「いいえ、私はあなたの本当のお母さんです。あなたの人間のお母さんは実は私の化身なのですよ。私はあなたの人間のお母さんとして生まれてきました。だから本当のお母さんは私だけなのです」と言いました。

彼女が述べたことをいくつか言います。

・ 「私は良い子のお母さんであり、悪い子のお母さんです」

・ 「誰もが良い子の母親になりたがります。悪い子の母親になりたがる人がいるでしょうか？　私はそんな差別はしません」

・  「もしわが子が汚れていれば、その子をきれいにして、ひざの上に載せてあげます。私は子どもを拒絶しません。普遍的な母として私はその子を受け入れます」

・ 「わが子よ、いつも覚えておきなさい。誰もいなくても私があなたと共にいます。私はいつもあなたと一緒です。決して怖がらず、落胆しないでください。私はあなたのお母さんですよ、それなのに何を恐れているの？　私はあなたの本当のお母さんです。私がそこにいる限り、恐れることはありません」

何という請け合いの言葉でしょう。私たちは時として、非常に弱くなったり、無力だったりします。ホーリー・マザーのこれらの言葉は私たちが憂鬱な時に、すごく力づけてくれます。　これらはうわべだけの言葉ではありません。彼女の人生の多くの出来事が、この思いやりを証明しています。人は絶望したり、欲求不満であったり、苦しんでいるときに、深い信仰と平安を得ます。そのような出来事の一例を言います。

貴族のある女性が非常に不道徳な生活を送っていました。後に、彼女はそのことについて後悔しました。当然のことながら、彼女は非常に落ち込みました。そんな時、彼女はラーマクリシュナ教団の僧侶に会いました。僧侶は彼女にホーリー・マザーに会うように言いました。そこで彼女はホーリー・マザーが住んでいたバグバザールに行きました、彼女はホーリー・マザーを見るとすぐにひどく泣き始めました。しばらくして、彼女は「ああ、お母さん、私は人生で非常に多くの過ちを犯してきたので、あなたに近づくことさえできません」と言いました。マザーは言いました「そうね、我が娘よ、あなたは間違ったことをしてきましたね。でも今は後悔しているじゃありませんか。それで十分よ。私のところにいらっしゃい。あなたをイニシエートしてあげましょう」。　そしてホーリー・マザーは彼女を我が子として受け入れました。

さて、ある人が他の人の罪を負うことは可能でしょうか？　絶対にできます。このことは、主イエス、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザーの生涯の中で示されています。体が純粋になれば、体のあらゆるシステムが非常に精妙になります。

さまざまな種類の人がいます。一つ目の種類の人々は多くの罪を犯しても後に悔い改め、もう二度とそのような罪を犯したくありません。二つ目の種類の人々は罪を犯し続けます。そして三つ目の種類の人々は、常に非常に純粋です。

ホーリー・マザーの体は非常に純粋で精妙になっていたので、誰が彼女の御足に触れたかによって、異なった反応が起こりました。一つ目の種類の人々がホーリー・マザーの御足に触れてもホーリー・マザーは全然大丈夫でした。しかし、まだ不道徳な生活を送っている人が彼女の御足に触れると、その反応は恐ろしいものでした。ホーリー・マザーは非常に苦痛を感じました。なぜなら彼女の体はとても純粋だったので、不純なタッチはホーリー・マザーに大きな影響を与えたのです。

多くの信者がホーリー・マザーのもとにやってきて、プラナーム（御足にひれ伏す）をするとき、ホーリー・マザーは何度もガンジス川の水でご自身の御足を洗うことがたびたび目撃されました。信者の中には「お母さん、どうして水で足を洗うのですか？　風邪を引きますよ」と言う人もいました。そんな時、ホーリー・マザーは、「我が子よ、ある人たちが私の足に触れると非常に落ち着くのですが、別の誰かが私の足に触れたとき、燃えている炭が私の体に投げ入れられたように感じることもあるのです」と言いました。

しかし、不純な人がホーリー・マザーの御足に触れているときでも、直ちに反応することはありませんでした。ホーリー・マザーは途方もない痛みに黙って耐えたのです。その後で、痛みを和らげるために、御足を水で洗いました。これは単なる神話や作り話や想像ではありません。

これが原因でホーリー・マザーは慢性疾患に苦しんでいました。ホーリー・マザーの付き人である僧侶は言いました「これからは誰ひとりあなたの御足に触れることを許さないでおきましょう。信者があなたの御足に触れることをお許しになるから、彼らの罪を受け入れて苦しんでおられるではないですか。あなたの病気が治らないのは当然です」。ホーリー・マザーは、「息子よ、シュリー・ラーマクリシュナ（と私）はラサゴラを食べるためだけにこの世に生まれてきたのでしょうか？　私たちは毒も飲むのです」

つまり、彼らは人類を救うという使命のためだけに転生しました。彼らには力がありましたが、静かに苦しみ、信者に慰めを与え続けました。ホーリー・マザーの慈悲を見てください。「私たちは、ただ美味しいものを供えられ、きちんと仕えられ、崇拝されるために人間として転生したのでしょうか？　いいえ。私たちはいつでも他者の苦しみを取り除く心づもりがありますし、そのために自分が苦しむことなどなんでもありません。私たちは何度も何度も転生したいのです」。この発言は、ホーリー・マザーの普遍的な母性を示しています。

私の理解するところでは、シュリー・ラーマクリシュナの生涯と教えはバクティ・ヨーガの実演、スワーミージーの生涯はギャーナ・ヨーガを示し、ホーリー・マザーの生涯はカルマ・ヨーガの実演です。彼女はまさに主婦としての生涯を送りました。数名の親戚とともに暮らしていましたが、その親戚たちは聖人とはかけ離れていました。彼らの多くは彼女をいつも悩ませていました。さらに信者たちもたびたび彼女のもとに滞在するためにやってきました。それでもホーリー・マザーは全ての人に慈悲深かったのです。彼女は家住者としての生活と霊的生活をどのように送るかを実演して見せました。ですので、特に家住者、とくに女性の信者たちのために、ホーリー・マザーは理想像として非常にふさわしいのです。